



# はいのたね



一年が過ぎるのは早いもので、おかげさまでまた新しい年を迎える事が出来ました。

昨年、当院では多くの新しい取り組みが始まり、スタッフの業種も増え、患者様に関わる機会も多くなりました。

患者様へ満足して頂けるように、スタッフ一同努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



本年もどうぞ宜しく御願い申し上げます

## 呼吸器リハビリテーション開始のお知らせ

当院では2015年12月より、呼吸器リハビリを開始致しました。

当院には、呼吸器疾患で来院される方が多く、リハビリをする事により、少しでも薬の量を減らす事ができ、呼吸が楽になって頂きたいとの思いで、リハビリルームを新設致しました。

息切れのある方は、お気軽に当院の医師に御相談下さい。



## 新任職員紹介 (理学療法士)



平成27年11月1日より、理学療法士として勤務する事となりました、廣川です。12月1日より、井上病院にリハビリ室が開設しました。呼吸器疾患で悩んでいる患者様は、呼吸リハビリを受けていただく事で、息切れが軽減し、お薬の量を減らすことができる可能性があります。リハビリと聞くと「しんどい・痛くても無理してやる」というイメージがありますが、実際は違います。その人その人の状態に合わせたちょうどいいプログラムを考えて、無理のない範囲で行っていくものです。私は、患者様としっかりコミュニケーションを取らせていただき、患者様に本当に必要なリハビリを行えるように努めていきます。また、笑顔を絶やさず、楽しいリハビリの時間を過ごしていただけるよう頑張りますので、どうぞよろしく御願い致します。



## がん検診を正しく受けよう

副院長：森雅信

今回は、皆様には是非読んでほしい日本医師会からのメッセージをお伝えします。がん検診を受けるメリットを理解して、正しく検診を受けるようにして下さい。



### がん検診を受けるメリット

日本人が亡くなる原因の第1位が、がんです。そこで、がんを早く発見して、がんによる死亡率を減少させるために、国の健康増進事業として各市区町村でがん検診が実施されています。

がんが発見された場合に、早く治療を開始することにより、治療後の生活の質(QOL)の向上や治療にかかる医療費の軽減に結びつくことも期待されます。

現在、厚生労働省では、5種類のがん検診を推奨しています(表)。この5種類のがんはがん検診を受けた場合と受けなかった場合を比べて、がんによる死亡率が減少することが研究により明らかにされています。

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診及び胃部エックス線検査	40歳以上	年1回
子宮がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	問診、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診、視診、触診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)		2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査		年1回

### 健康な人へのデメリット

がん検診を受けるのは健康診断と同じように、症状がない健康な人です。しかも、皆が検診対象とされているがんにかかったり死亡するわけではないため、恩恵を受けるのは一部の人に過ぎません。検診による健康な人の身体への負担やかかる費用・時間に加えて、偽陽性(がんがないにもかかわらず陽性となる)、偽陰性(がんがあるにもかかわらず陰性となる)、過剰診断(生命予後を脅かしたり症状をもたらしたりしないようながんの診断)などが起こるといったマイナス面もあります。5種類のがん検診については、このようなデメリットを上回るメリットがあるものと判断されています。

### 正しく受けるとは

各市区町村や職場で定期的ながん検診を受けて、もし陽性と判定された場合は、必ず精密検査を受けてください。がんが疑われ、精密検査を受けて、初めてがん検診を正しく受けたといえます。

尚、がん検診はあくまで健康な人を対象にしていますので、自覚症状がある人は医療機関を受診しましょう。

